

# 政権担当能力の欠如、公明党のぐり押し目立つ

## 首相再び辞任

福田首相が、9月1日辞任を表明した。内閣を改造し、臨時国会の召集日を決めた直後の辞任表明であった。

一年前も同様な事があった。安倍首相が就任後一年足らずで国会での所信表明の寸前辞任表明をした。自民、公明両党の政権は2代続けて政権発足一年で政権を投げ出した。

内閣の仕事は山積している。年金記録の解明と整理、医療の混乱と荒廃の是正、物価景気対策、拉致をめぐる日朝交渉などである。

自民、公明両党の政権は、これらの仕事を放棄して政治空白を招き、日朝交渉などは中断を余儀なくされている。

自民、公明政権が2代続けて一年で政権を投げ出したことは、その無責任さとともに、両党には政権を担当する能力がないことを明らかにした。

また、福田首相は、辞任表明の際、国民に対するおわびの言葉は一言もなかった。それどころか自民党の幹事長と気脈を通じて自公政権の二度にわたる政権投げ出しの失態から国民の目をそらせるため自民党の総裁選挙を「華々しく、徹底的に」やるよう促し

た。露骨な党利党略というしかない。

一方、福田首相を辞任に追い込んだ背景には、公明党の度重なるぐり押しがあったとメディアは伝えていている。

公明党は、物価、景気対策などを審議する秋の臨時国会の会期を短くしようとした。矢野絢也元委員長が名誉毀損で創価学会を訴え、国会で証言する用意があると言っている。

この証言を阻むため国会の会期を短くするように自民に迫ったと伝えられている。

また、来年7月の東京都議会議員選挙に力を入れるため衆議院の早期解散を主張し、「ばらまき」と批判されている。『定額減税』の実施も自民党に吞ませた。

福田辞任劇から見えてきたのは、政党エゴ、党利党略むき出しの公明党の姿であった。

# 宙に浮いた年金の特定 公約違反で責任逃れ

## 自民・公明両党

自民、公明両党は、昨年の参院選の前に、持ち主の分からないいわゆる『宙に浮いた年金記録』約5千万件については、「今年3月末までにコンピュータ上のすべての受給者、加入者の記録と名寄せ(照合)を行い、政府・与党の責任で最後の一人までチェックして正しい年金を支払う」と公約した。

そして、ことし3月までに6万件を残して5095万件の名寄せを終了した。しかし、政府の発表によると、持ち主がほぼ特定できたのは117

2万件にとどまる一方、4割にあたる2025万件は持ち主を特定することができなかった。

自民・公明両党は「公約違反ではない」と強弁しているが、「3月末までに最後の一人までチェックして、正しい年金を支払う」と言っている以上、公約違反は明白だ。

民主党は、予算と人員を投じて、8億5千万件にのぼる手書台帳とコンピュータの記録をすべて照合して年金の持主を確定させるよう求めている。

# お年寄りいじめの高齢者医療

## 自公が強行、民主廃止の決意

後期高齢者医療制度が4月から始まった。この制度は、75歳以上の高齢者を対象に、公費5割、現役世代の保険料4割、高齢者の保険料1割の負担で、その医療費をまかなうというもの。これは、高齢者自身に「応分の」医療費の負担を求めるとともに、75歳以上の高齢者を他の世代から切り離してその医療費の巨額ぶりを明らかにし、医療費を抑制してゆくことが狙いだ。

しかし、この制度では、高齢者一人ひとりが保険料を負担し、特に会社員の世帯主に扶養されている高齢者は新たに保険料を負担することになった。

「低所得者ほど負担が軽くなる」と説明していたが、その後の調査で逆に低所得者ほど負担が重くなることが明らかになった。

さらに、終末期医療で医師が治療方針を文書で説明すれば報酬が出ることになり、「延命治療を抑制するものだ」と批判されている。

また、保険料は原則として2ヶ月に一度支払われる年金から天引きされることになり、老後の生活費から否応なく引かれることに高齢者の反発は強まっている。

また、厚生労働省は当初、

後期高齢者医療制度は、おとしの国会で自民、公明両党が民主党などの反対を押し切り強行採決で成立させたも

のだが、ことし4月以降世論の反発が強まると制度の手直しに着手した。しかし、制度の骨格は変えていない。

そもそも大事にすべき高齢者を切り離して若い世代よりも医療の上で厳しい条件の下に置くこと自体、人間の尊厳を顧みない不当なものだ。

池田元久衆議院議員は、6月10日横浜駅西口で行われた民主党の演説会で、「高齢者を年齢で差別し、所得の低い人ほど医療を受けにくくするお年寄りいじめの法律だ。国民には冷たい自民党と公明党の政治の本質が現れている」と厳しく批判した。

民主党は、5月28日他の野党三党とともに後期高齢者医療廃止法案を提出。6月6日参議院本会議で野党の賛成多数で可決した。しかし、自民、公明両党は、批判を恐れて廃止法案を衆議院で否決できず継続審議にした。

民主党では、次の総選挙で後期高齢者医療制度の廃止を公約に掲げて戦う方針だ。そして、現行の各保険制度を一元化して、公平、公正な医療保険を実現する考えだ。



池田元久衆議院議員が土ヶ谷駅西口でお年寄りの話をきく



# 非営利バンク、窮地から一転 モデルとして奨励へ

池田議員奔走

サラ金など貸金業の規制について、年29・2%の出資法の上限金利を、年20%以下の利息制限法の上限金利まで引き下げることが焦点になっていた。

自民党と金融庁は当初、業者救済のため中間的な特例の高金利を暫定的に5年間認めようとしていたが、世論と民主党案を意識して特例の高金利を撤回し、06年11月多重債務者対策を盛り込んだ貸金業法案を国会に提出した。

しかし、法案では、貸金業に必要とされる純資産の額を引き上げたため、地域で福祉や環境、女性などの活動に低利で融資をしている非営利の市民バンク（NPOバンク）

が新規開業や存続ができなくなる恐れが出てきた。NPOバンクは、バンクグラデシユのグラミン銀行が国際的に貧困の撲滅に大きく貢献したとして、創設者のモハマド・ユニス氏が06年のノーベル平和賞を受賞したことから最近脚光を浴びている。そこで、池田元久衆議院議員は、「志の高いNPOバンクを逆に閉め出すのは不当だ。NPOバンクが正門から堂々と入れるようにすべきだ」と主張し、自民党関係者を精力的に説得、根回しをした。



貸金業者が集まる神田駅周辺を視察、左端は伊藤財務金融委員長

その結果、池田議員の説得をうけて、渡辺喜美金融担当副大臣（当時）が11月29日の財務金融委員会で「NPOバンクの参入と存続については2年半後の法律の見直しの中で法律に明記をする」と答弁した。また、法案に対する付帯決議で、「市民活動を支える新たな金融システムを構築す

る観点から、非営利で貸付を行う法人の参入と存続が可能となるよう法律本則に明記をする」と具体的な合意が成立した。

金融庁は、これをつけて07年3月これまでのNPOバンクに対する消極的で冷淡な態度を一転して、純資産額の規制からNPOバンクを除外することにになった。

それどころか、各地域で「顔の見える融資」を行う、いわば「日本版グラミン銀行」モデルを広げてゆくとして、NPOバンクを奨励する方針に転換した。

池田議員は、金融庁が方針転換し、NPOバンクが正門に位置づけられたことを歓迎するとともに、引き続きNPOバンクの地位の確立と活動の拡大に力を入れる考えだ。

池田議員は、06年4月18日に衆議院に復帰したが、4月分の歳費が全額支給されたため、復帰前日までの17日分の歳費75万円を国際的に人道支援活動をしているNPO2団体に寄付をした。

歳費を人道支援に寄付  
池田議員は、06年4月18日に衆議院に復帰したが、4月分の歳費が全額支給されたため、復帰前日までの17日分の歳費75万円を国際的に人道支援活動をしているNPO2団体に寄付をした。

# 超低金利で家計から

# 170兆円が失われた

池田元久衆議院議員は、3月25日開かれた衆議院財務金融委員会ですべての超低金利の家計への影響について次のように述べた。

「我が国の預貯金の金利は、95年に公定歩合が0・5%に引き下げられたことを契機に超低金利時代に入り、家計の利子の受取額は年々減り続けた。しかし、利息が高かった93年の年間利子受取額がその後も続いたと仮定した場合06年までの累計額は220兆9千億円になる。つまりこの間これだけの利子収入が得られなかったことになる」

一方、池田議員は、家計の住宅ローンなど借入金の利子の支払いについて、「同じように93年の借入金の利子の支払いがその後も続いたと仮定すると、累計53兆9千億円利子を余分に支払わなければならなかった」と指摘した。

その結果、池田議員は、家計での利子収入と支払いを合算するとさしひき167兆円

が家計から失われたことを明らかにし、就任後初めて委員会に出席した白川日銀総裁もこれを認めた。池田議員は、「超低金利政策で家計には犠牲を強いながら、不良債権を積み重ねてきた銀行と重い債務を抱えた従来型の古い産業を助けた」と厳しく批判した。

## 相鉄JR連絡線15年開通へ

## 池田議員強力にあと押し

相鉄線西谷駅を分岐点とする相鉄・JR連絡線が15年4月、相鉄・東急連絡線が19年

4月夫々開通する見通しとなった。これは、これまでの東部方面線の計画を拡充したもので、池田元久衆議院議員は初



NHK問題を解説する池田衆議院議員  
=08年2月5日 BS11「インサイドアウト」に出演



臨時国会の焦点などについて議論する池田衆議院議員  
=08年8月20日 CSニュースター「国会番外地」に出演

当選以来国会でとり上げ、当時の運輸省にはたらきかけるなど実現に力を尽くしてきた。完成すると、二俣川から新宿と目黒までは乗り換えなしで現在より夫々15分16分短縮され大変便利になる。